

第12回在宅看護スキルアップ(出前講座)研修実施報告

開催日時：平成30年1月18日(木) 15:30~16:15

開催場所：阿波老人ホーム 仙寿園

テーマ：看取りのケア 看取り介護

講師：かさまつ在宅クリニック 訪問看護認定看護師 長谷 康子 氏

参加人数：34名

【本日の研修内容】

- ・あなたにとって望ましい死とはどんなものですか？
- ・死に行く人の苦痛「痛み」：ここで死に行く人の苦痛について考えてみましょう

◇日本人にとっての good death(グッドデス)とは

「信頼できる人がいて、人に迷惑を掛けず、苦痛が少ないこと」本人の満足が尺度になっている

◇看取り間近「そろそろである」サインとは

- ①呼吸の変化：下顎呼吸、死前喘鳴
- ②意識・認知機能の変化：徐々に意識レベルが低下、せん妄
- ③経口摂取の変化：
- ④皮膚の変化：四肢末梢の冷感、チアノーゼ
「冷たいと思っていないか」「温めてあげたい」など家族の思いを尊重し、気遣いをする靴下や手袋の着用
- ⑤情動的な状態の変化：身の置き所のなさ、落ち着かなさ、興奮
環境を整え、事故のないように配慮する
- ⑥全身状態の悪化
- ⑦医療者の直感
尿量の低下、血圧低下、経皮的酸素飽和度低下、死前喘鳴などは、家族は死が近いと感じながらも十分に理解できていない時がある。
⇒ 病状の変化に対して、医師に説明をしてもらう
信頼関係を保つことも大事

◇死に行く人の苦痛「痛み」 痛みは関連し、影響しあっている

身体的苦痛 対処法

まずは身体的苦痛をとることが必要

身近で家族のように側にいる介護士だからこそ、気づくことができる 繋ぐことができる

社会的苦痛 対処法

社会参加の視点をもって接する

精神的苦痛 対処法

気持ちをわかって一緒に考えてくれる、わかろうとしてくれる

霊的苦痛 対処法

何が大切なのかと考えることも



【講義風景】

【Q&A】

Q 1. 施設では重症になってからの看取り、動けなくなってからの看取りとなることがある。その状況で何をしてあげたらよいか、教えてほしい。

A 1 それまでのケアが大事。それまでの関わり、信頼関係を構築することが重要。いつもの人がいつものように関わり、心配してあげることが大切である。

Q 2. 施設でのグリーフケアとは？

A 2 思っていることをはき出すことがグリーフケア
四十九日が過ぎて、電話をかけ、ケアのことやどういう思いなど亡くなった人についてお話を
する。
家に何ってもよいし、施設にお呼びしてもよい。
施設においては、症例について振り返ることも大事。職員のグリーフケアとなる。